

□ 耐震診断結果の見方

- ① 「耐震診断の方法の名称」を確認し、「附表 耐震診断の評価の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価」の中で「耐震診断の方法の名称」が同じ欄を見ます。
- ② 「評価の結果」の数値が、附表のどの部分に当てはまるかを確認します。係数 Z、G、U については、附表の下段を参照。
- ③ 当てはまる欄の上部に「安全性」の評価（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）が記載されていますので、その内容を確認してください。
- ④ 備考欄には、補足事項を記載してあります。

要安全確認計画記載建築物（緊急輸送道路沿道建築物）の耐震診断結果

| No. | 建築物の名称 | 建築物の位置 | 建築物の主たる用途 | 耐震診断の方法の名称 | 構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果 | 耐震改修等の予定 | | 備考 |
|-----|--------|-----------|---------------|--|--|----------|------|---------|
| | | | | | | 内容 | 実施時期 | |
| 1 | 〇〇〇〇庁舎 | 〇〇市 〇〇 | ① 官公署 (庁舎) | ① 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版) | ② $Is/Is_0=1.11$ $C_{T,U} \cdot S_D=0.33$ | - | - | ④ 耐震改修済 |

附表 耐震診断の評価の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価

| 耐震診断の方法の名称 | 構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性 | | |
|---|--|---------|---|
| | Ⅰ | Ⅱ | Ⅲ |
| 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版、2017年版) | $Is/Is_0 < 0.5$ 又は $C_{T,U} \cdot S_D < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$ | 左右以外の場合 | $1.0 \leq Is/Is_0$ かつ $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{T,U} \cdot S_D$ |

- Ⅰ. 地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。
- Ⅱ. 地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。
- Ⅲ. 地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。

- ※ 震度6強から7に達する程度の大規模の地震に対する安全性を示す。
いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度5強程度の中規模地震に対しては損傷が生ずるおそれは少なく、倒壊するおそれはないとされています。
- ※ 耐震診断結果の備考欄に特記が無い限り、Z（地域指標）=0.9、G（地盤指標）=1.0、U（用途指標）=1.0

用語の解説

Is : 建築物の耐震性能を表す指標 (Iso は判定基準となる目標値) 。この値が大きいほど耐震性能が高い。

CTU(CT)・SD : 構造体の粘り強さ、建築物の平面・立面形状等による耐震性能に係る指標。この数値が大きいほど耐震性能が高い。

Z・G・U(Z・Rt・G・U) : 地域特性(地震活動等)、地盤特性(地形等)、建築物の振動特性、建築物の用途等から目標値を補正するための指標。補正がない場合は 1.0 となる。

q : 保有水平耐力に係る指標。この値が大きいほど耐震性能が高い。